

年頭所感

社団法人日本金型工業会
会長 上田 勝弘

謹んで平成23年の新春を御祝い申し上げます。

会員の皆様もここ数年来の厳しい環境に耐えしのぎ心新たに新春を迎えられた事と存じます。リーマンショック以来、大手企業の業績は回復の軌道に向かっており、業績好調の決算を発表している企業数も増えておりますが、中小企業は回復はおろか廃業倒産の連鎖が続いております。我々金型関連産業も必死になって営業を続けているものの、先の展望がはっきりしておりません。

自動車、家電、電子機器の産業は、大きなマーケットであるインド・中国を中心として東南アジアでし烈な価格競争を展開しており低コスト第一主義の調達を強化しており、本来日本で発注されていた金型も海外現地へ発注され、日本の金型関連需要は減り続けております。

日本の投資を活発化し雇用の増大、景気浮揚を促進する為、菅総理を中心として昨年9月より4回にわたり官邸で「国内投資促進円卓会議」が行われ、私も金型工業界代表として中小企業施策に対するきめ細やかな専門会議の開催を要求致しました。法人税率5%引き下げも行われる様ですが、利益の出ない業界や赤字の出ている会社には無縁です。今は国を挙げての需要創出が最大の問題です。我々企業も戦術、戦略を根本的に見直しながら脱兎の如く明るい希望が湧いてくる年になる様に会員の皆様と頑張る事を念願しております。